

# 新型コロナウイルス感染症対策 事例集について

令和3年11月16日  
地域医療課

# 1 事例検討会とは

・在宅療養に関わる医療・介護の専門職※が相互理解を深めるため、多職種で集まり事例の紹介やグループディスカッションを行う会。

※医師・歯科医師・薬剤師・看護師・ケアマネジャー・ヘルパー・リハビリテーション専門職・地域包括支援センター職員など

・毎年4回実施。

(参考) 令和3年度の事例検討会実施スケジュール

	日時	場所	コーディネーター (敬称略)	参加者数
第1回	7月9日 (金) 19時～21時	区民・産業プラザ Coconeriホール	フローラ石神井公園地域包括支援センター	108名
第2回	10月1日 (金) 19時～21時		岡田医院 岡田 徹也 (医師)	128名
第3回	11月26日 (金) 19時～21時		ねりま西クリニック 大城 堅一 (医師)	—
第4回	1月29日 (土) 14時～16時		訪問看護ステーション連絡会	—

## 2 事例集作成の経緯について

### 《経緯》

- ・令和3年度第1回事例検討会にて、「コロナ禍での在宅療養」をテーマとし、コロナで困ったあれこれについて、参加者が持ち寄り、ディスカッションを行った。
- ・参加者全員がそれぞれ持ち寄った事例を掲載した事例集を後日作成した。

### 《目的》

- ・各事業所における新型コロナウイルス感染症対策について振り返り、共有する。
- ・今後起こり得る流行期の対策や、新型の感染症発生時の参考とする。

### 3 事例の内訳について

#### 《参加者》

##### 内訳（108名）

ケアマネジャー	53名	薬剤師	24名	看護師	6名
地域包括支援センター職員	12名	管理者	5名	理学療法士	3名
サービス提供責任者	2名	医師	1名	PSW	1名
事務	1名				

#### 《事例内容》

##### 内訳（110件）

利用者・家族、職員が感染した	15件	感染を恐れる方への対応	27件
利用者・家族、職員が濃厚接触者になった	16件	感染予防対策	9件
感染が疑われる利用者、職員への対応	17件	その他	26件

# 4 事例集の内容について



## 掲載内容

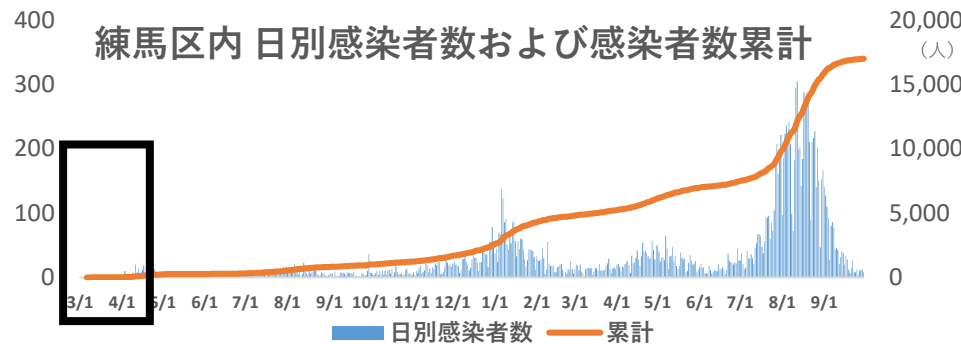
- ・はじめに
- ・もくじ
- ・1 新型コロナにまつわる時系列トピックス
- ・2 事例検討会参加者が所属する事業所の  
新型コロナ対策（感染流行前・流行後）
- ・3 事例入力表（全110事例）
- ・4 編集後記

# 掲載内容①

## 1. 新型コロナにまつわる時系列トピックス

令和3年9月30日現在

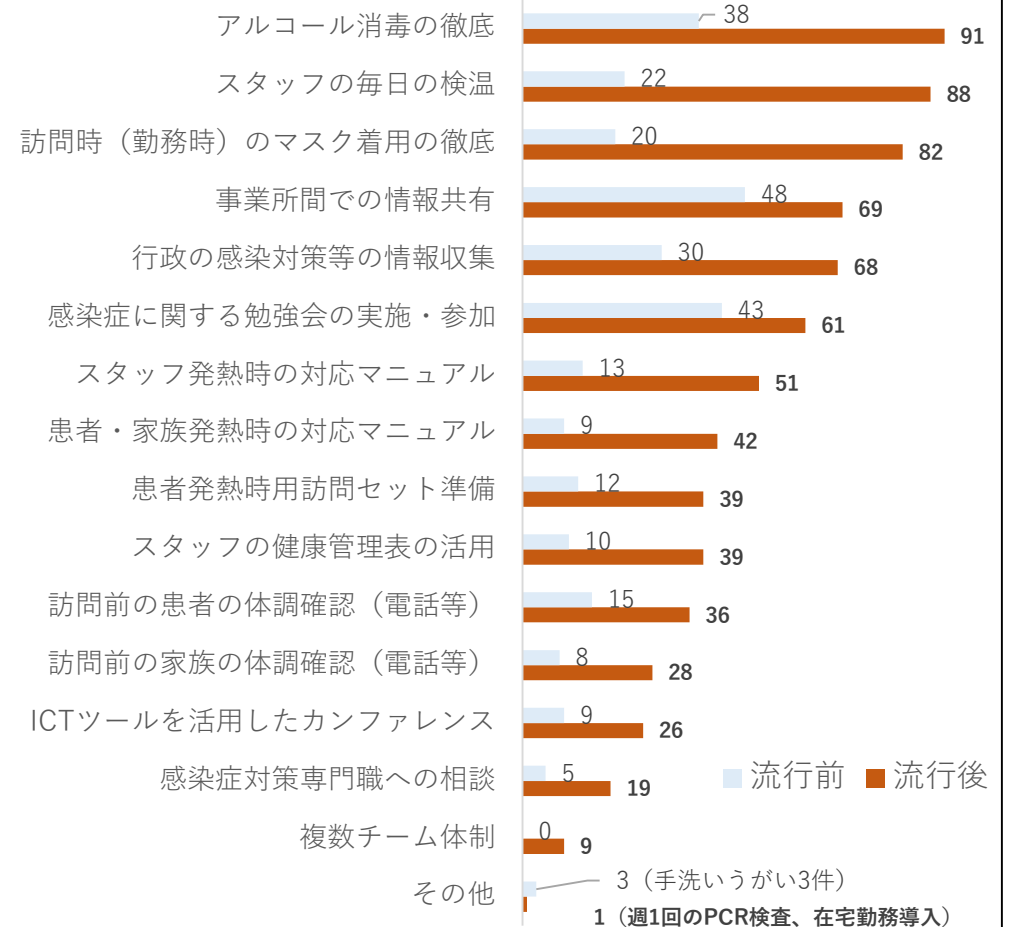
日付	国	都	区
令和2年 1月	15日	国内で初の感染者確認	
	30日	新型コロナウィルス感染症対策本部設置	東京都新型コロナウィルス感染症対策本部設置 健康危機管理対策本部設置
令和2年 2月	4日		区民、医療機関からの問い合わせに応じるための練馬区コールセンターを開設
	5日	ダイヤモンドプリンセス号の乗客乗員に新型コロナウィルス感染確認	
	21日		都主催イベントにつき、大規模なもの、食事を提供するものは原則延期又は中止
	25日	新型コロナウィルス感染症対策の基本方針決定 感染の広がり、会場の状況等を踏まえ、開催の必要性を改めて検討するよう要請	
	26日		区長を本部長とする危機管理対策本部を設置 屋内での大規模イベントや屋外での大規模イベントの原則中止
28日	小、中、高校の全国一斉臨時休業要請		
令和2年 3月	2日		区立小中学校一斉休業 保育施設や学童クラブなどは感染防止対策を講じたうえで、運営を継続
	5日		区内で初の感染者確認
	13日	新型インフルエンザ等対策特別措置法の改正	
	27日		新型コロナウィルス感染症に対する練馬区方針を決定 ・区内の患者発生に関する情報を個人情報保護に配慮したうえで公表する ・区民へのお願いとして、不要不急の外出およびイベント等への参加を可能な限り控えるよう呼びかけなど、区の基本的な考え方や、具体的な対応策を明記



## 2. 事例検討会参加者が所属する事業所の新型コロナ対策 (感染流行前・流行後)

事例検討会の参加者にアンケートを取ったところ、新型コロナ流行後、各事業所で様々な感染症対策が新たに取りられるようになったことがわかりました。

回答者数：100名



# 掲載内容②

タイトル	感染を警戒し、訪問介護の利用を1か月中止にしたケース			
事例の カテゴリー	感染を恐れる方への対応			
発生時期	令和2年3月	対象者	利用者	
対象者の詳細 (利用者・家 族の場合)	年代	性別	世帯状況	主な疾患名
	80代	女性	家族と同居	スモン病
普段関わって いる職種	<input type="checkbox"/> 医師 <input type="checkbox"/> 保健師 <input checked="" type="checkbox"/> ケアマネジャー <input type="checkbox"/> 歯科医師 <input type="checkbox"/> 理学療法士 <input type="checkbox"/> 地域包括支援センター <input type="checkbox"/> 薬剤師 <input type="checkbox"/> 作業療法士 <input type="checkbox"/> 相談員、生活相談員 <input checked="" type="checkbox"/> 介護福祉士 <input type="checkbox"/> 言語聴覚士 <input type="checkbox"/> その他 <input checked="" type="checkbox"/> 看護師 <input type="checkbox"/> MSW			
事例の内容	<p>令和2年3月（コロナ感染が広がってきた時期）に、「うちにくるヘルパーさん達は感染していないか？」「〇〇（ケアマネ）さんも大丈夫？」「他の家で介護して、その方から感染していない？」「万が一を考えると怖い」「感染していない確実な証拠はある？」「しばらく誰も来てほしくない」等、不安な様子。当時はPCR検査や抗体検査も確立されていない状況だったため、訪問介護の利用をしばらく中止することになる。ケアマネの訪問もマスク・短時間・距離を置いての訪問も「100%感染しない？」と懐疑的だったので、1か月半の間に、電話での状況確認（モニタリング）にとどまる。その1か月半の間にケアマネに頻繁にコロナウイルスについて「確認してほしいことがある。」と頻繁に連絡が入り、「ワクチンはいつできる？」「〇〇病院の感染状況は？」「感染した時の初期症状は？」「WHOが言っていることは確かなの？」「知り合いのお医者さんに聞いてくれない？」「どこのテレビ局（コメンテーター）が正しいの？」など様々な情報が入ることで更に不安が拡大していった。</p>			
行った対策	<p>訪問介護を利用中止にしている2.3週間で、本人から清潔保持が難しくなり、「かゆみが増してきた。どうすればよい？」との訴えがあり、ヘルパーの体調確認の徹底、マスク（不織布）・介助以外の時は距離を保つ・換気・会話の禁止などを徹底すればリスクは少ないことを電話で何度もお伝えするが「でも、」「感染したら、」という返答。</p> <p>口頭ではなく、その時点で判明しているあらゆるコロナ関連(感染対策含む)の資料(厚生労働省や医師会などのネットから検索)をまとめ、それを本人に渡し(自宅ポストに投函)、それをもとに数回にわたり、電話で説明を行っていったことで少しずつ不安が解消され、1か月半後にサービス再開となった。</p> <p>資料だけではなく、時間の経過（情報の集約、本人の気持ちの整理等）が必要だったケースだったと考える。</p>			
その後の経過	<p>3密の回避、検温の実施等を徹底することで、少しずつ不安が解消され、1か月半後にサービス再開となり、ケアマネの訪問も可能になった。</p>			
ここがポイントになったと思うこと	<p>・本人の中で、様々な情報が入り交じり攪乱されていたので、情報を集約し、説明をしたこと。時間の経過と共に正しい情報の集約、本人の気持ちの整理等が必要だった。</p>			
振り返ってこうすればもっとよかったと思うこと	<p>未知のウイルスだったために、「コロナウイルス」について分からないことが多く、世界的にテレビやネットの情報も錯綜し、正しい情報発信が出来ていないメディアも多くあったことで、世間一般の方々も混乱していた。</p> <p>ケアマネからだけではなく、担当看護師から医療的な側面で説明をしてもらうことも必要だったかと思う。</p>			
ご自身の 職種	ケアマネジャー	経験年数	11～15年目	

利用者・家族、職員が感染した

利用者・家族、職員が濃厚接触者になった

感染が疑われる利用者、職員への対応

感染を恐れる方への対応

感染予防対策

その他

## 5 掲載・周知方法（予定）

### 《掲載方法》

ホームページでの公開  
(10月12日（火）公開開始)



「練馬区 事例検討会 事例集」  
で検索！

令和3年度 練馬区在宅療養推進事業  
新型コロナウイルス感染症対策事例集

### 《周知方法（予定）》

事例集ページのリンクや上記QRコードを掲載した事例集案内チラシを  
医師会、薬剤師会などに配布予定。